

開催地名	群馬県安中市
開催日時	令和5年11月23日（木） 13:00 ～ 14:30
開催場所	松井田文化会館小ホール
語り部	武蔵野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	地域住民 70名
開催経緯	本市は令和元年台風19号で「避難指示（緊急）」を発令する事態となったが、それから数年が経過し、防災意識が低下している人が多いのではないかと感じている。語り部のお話を伺うことで、防災意識の向上につなげたい。
内容	（１）防災とは 防災とは「災い」を「防ぐ」ことである。災いとは自然災害だけではなく、人の生活、財産、命などを脅かすもの全てであり、それらの災いを防ぐことが防災である。 自然災害の発生は抑えられないが、人為的な災いは予防策がとれる。例えば、病気に対する予防接種、交通事故に対する交通ルールの策定、安否確認や日々の様子、健康状態などを確認できる挨拶や近隣住民と付き合いなども予防策といえる。 形骸化している防災訓練よりも、遠くの地での先進事例よりも、自身の地域に見合った、普段の生活の中で意識することによって、防災や予防ができる。災いによって命を落とさない工夫をしていくこと、備えや、周りと協力できるような関係性を築いておくこと、それがまさに防災に繋がる。 （２）避難とは 様々な機関から「警戒レベル」や「避難情報」が定められ発信されているが、規則正しく段階的に発信が出て、それに合わせて避難すれば大丈夫、などということなどまず有り得ない。避難情報が出たら行動するという意識ではなく、自身の周りでは何が起こり得るのか、その際に何を着て、何を持って、どの道を通ってどこへ行けばいいのか、普段から考えておいていただきたい。 安中市では「逃げどきマップ」という素晴らしいものがある。大事なものは自分の地域を確認し、把握し、自分事とすること。 （３）避難と避難所 避難とは「難」を「避ける」ことである。避難所に行くことが避難ではなく、その時に安全でいられる状況に身を置くことが避難であり、災害によっては現在地が安全で、その場に留まるという判断も有り得る。

一方、避難所とは、自宅が災害により生活できなくなった人が生活維持をするための場所である。普段から避難所での生活を想定して持ち物を考えておくこと。持ち物には普段使いの防災・安全グッズと、持ち出し袋と、備蓄品が考えられる。備蓄はローリングストックである。いずれもキーワードは「フェイズフリー」であり、いつも持ち合わせているものが防災上でも役立つ物であれば、無理なく備えおくことができる。

(4) 生活者の視点で考える

避難所は共同生活の場となるため、避難所開設にあたっては生活者の視点で考える必要がある。避難所の開設や運営について、あるいは過ごし方について、有事の際の生活の場を、そこでの生活者の視点に立って地域や家族で話し合っておくとよい。日常の会話の中にある出来事や話題が、そのまま避難所生活のシミュレーションとなる。それは家族内だけではなく、地域単位での住民同士のコミュニケーションの中でも同じこと。

つまり、その地域で生活を営んでいる一人一人が地域の防災に関係する大切な存在であり、関係性を築いておくこと防災の基本であるといえる。

挨拶は誰でもできる安否確認。いつも笑顔で挨拶を交わす地域であっていただきたい。



開催地より

避難所にいくことだけが避難ではないといった防災知識や、日常生活の意識を変えると防災に繋がるという考え方を学ぶことができ、大変参考になった。実際に災害を経験された語り部の言葉には説得力があり、参加者は深く聞き入っていた。